

特別企画：出版業界 2012 年度決算調査

大手出版社、10 社中 7 社が減収

～電子書籍の台頭、雑誌離れで、市場縮小止まらず～

はじめに

国内出版市場の縮小が続いている。書籍・雑誌ともに厳しい環境が続いているが、特に、雑誌を取り巻く環境悪化に歯止めがかからず、販売部数、広告収入ともに大きく低迷。最近では『漫画サンデー』や『日経WinPC』など、休刊に追い込まれる雑誌が後を絶たない。

帝国データバンクは、2010～2012 年度の業績が 2013 年 9 月時点で判明している出版社（TDB 産業分類コード：27201、出版業）、出版取次業者（同：41741、書籍卸売業）、書店経営業者（同：49401、雑誌・小売業）の計 1167 社を自社データベース・企業概要ファイル「COSMOS 2」（144 万社収録）から抽出し、分析した。なお、同様の調査は 2010 年 11 月 1 日に続き 2 回目。

調査結果（要旨）

1. 出版社の 2012 年度売上高トップは、(株) 集英社の約 1260 億 9400 万円。売上上位 10 社中 7 社が「減収」となるなど、販売減に歯止めがかからず。他方、損益面を見ると、2012 年度の「黒字企業」は 518 社（79.2%）と、不動産売却や赤字部門縮小等で収益確保する出版社が目立つ
2. 取次業者の 2012 年度売上推移を見ると、売上上位 8 社中 6 社が「減収」。このうち、4 社が「2 期連続減収」となった。他方、損益面では 2012 年度の「黒字企業」は 178 社（84.0%）と全体の 8 割超。在庫管理の徹底や物流の効率化進む
3. 書店経営の 2012 年度売上高トップは、(株) 紀伊國屋書店の約 1081 億 9000 万円。売上 31 位以下では「2 期連続減収」の構成比が 46.5%にのぼるなど、小規模業者ほど売上減が顕著。損益面でも、小規模業者は大手・中堅クラスに比べて厳しい状況

出版社 売上上位5社

	企業名	2012年度 売上高 (百万円)
1	(株) 集英社	126,094
2	(株) 講談社	117,871
3	(株) 小学館	106,466
4	(株) 角川書店	39,901
5	(株) 日経ビービー	38,300

取次業者 売上上位5社

	企業名	2012年度 売上高 (百万円)
1	日本出版販売 (株)	581,355
2	(株) トーハン	491,297
3	(株) 大阪屋	94,259
4	栗田出版販売 (株)	40,800
5	(株) 図書館流通センター	39,502

書店経営業者 売上上位5社

	企業名	2012年度 売上高 (百万円)
1	(株) 紀伊國屋書店	108,190
2	ブックオフコーポレーション (株)	58,692
3	(株) ジュンク堂書店	51,315
4	(株) 有隣堂	51,311
5	(株) 未来屋書店	50,565

※ 上記は単独決算数値、一部推定値含む

1. 出版社（654 社）

2012 年度の売上推移を見ると、売上上位 10 社中 7 社が「減収」となったことが判明した。このうち、(株) 講談社、(株) 小学館、(株) 日経ビーピーの 3 社が「2 期連続減収」となった。

売上上位 30 社を見ても、全体の 3 社に 1 社にあたる 10 社（構成比 33.3%）が「2 期連続減収」となっている。これに対して「2 期連続増収」となったのは、(株) 文藝春秋、(株) 光文社など 3 社にとどまった。2012 年度の「減収企業」は 359 社（同 54.9%）と依然として過半数を占めており、書籍は売れる本と売れない本の二極化に加え、雑誌は月刊誌・週刊誌などの長期低迷を背景に、多くの企業で販売減に歯止めがかかっていない。

他方、損益状況は対照的な結果となっている。売上上位 10 社中 9 社が「2 期連続黒字」となったうえ、2012 年度は全 10 社が黒字を計上。売上上位 30 社を見ても、全体の 7 割（21 社）が「2 期連続黒字」となっている。2012 年度の「黒字企業」は 518 社（構成比 79.2%）と全体の約 8 割を占めており、社有不動産の売却や赤字部門の縮小・撤退などのリストラを進め、売上減少が続く中でも一定の収益を確保している出版社が多い。

出版社 比較

売上推移	全体		上位30社		31位以下	
	数	構成比 (%)	数	構成比 (%)	数	構成比 (%)
2期連続増収	138	21.1	3	10.0	135	21.6
2期連続減収	227	34.7	10	33.3	217	34.8
上記以外	289	44.2	17	56.7	272	43.6
合計	654	100.0	30	100.0	624	100.0

損益状況	全体		上位30社		31位以下	
	数	構成比 (%)	数	構成比 (%)	数	構成比 (%)
2期連続黒字	443	67.7	21	70.0	422	67.6
2012年度に黒字転換	75	11.5	7	23.3	68	10.9
2012年度に赤字転落	71	10.9	0	0.0	71	11.4
2期連続赤字	65	9.9	2	6.7	63	10.1
合計	654	100.0	30	100.0	624	100.0

2012年度売上高 上位10社

	TDB 企業コード	企業名	所在地	2011年度 売上高 (百万円)	2012年度 売上高 (百万円)	2011年度 前年度比 (%)	2012年度 前年度比 (%)	2011年度 当期純損益 (百万円)	2012年度 当期純損益 (百万円)
1	985312800	(株) 集英社	東京都	131,865	126,094	1.1	▲ 4.4	5,547	3,751
2	985202906	(株) 講談社	東京都	121,929	117,871	▲ 0.3	▲ 3.3	164	1,550
3	985313502	(株) 小学館	東京都	107,991	106,466	▲ 2.8	▲ 1.4	▲ 144	1,282
4	989757740	(株) 角川書店	東京都	40,176	39,901	33.9	▲ 0.7	1,822	1,294
5	985610024	(株) 日経ビーピー	東京都	38,677	38,300	▲ 4.5	▲ 1.0	1,465	1,700
6	982333931	(株) 宝島社	東京都	33,300	26,995	1.8	▲ 18.9	374	10
7	985744903	(株) 文藝春秋	東京都	25,673	26,601	0.8	3.6	434	628
8	985490104	東京書籍 (株)	東京都	27,011	25,052	30.6	▲ 7.3	1,202	604
9	985195202	(株) 光文社	東京都	23,321	24,630	5.9	5.6	1,096	1,118
10	989225131	(株) ぎょうせい	東京都	21,447	21,641	▲ 15.4	0.9	2,695	4,337

※ 上記は単独決算数値、一部推定値含む

2. 取次業者（212 社）

2012 年度の売上推移を見ると、売上上位 8 社中 6 社が「減収」となったことが判明した。このうち、(株) トーハン、(株) 大阪屋など 4 社が「2 期連続減収」となった。

売上上位 30 社で見ても、全体の 4 割にあたる 12 社（構成比 40.0%）が「2 期連続減収」となっており、売上 31 位以下の比率（同 29.7%）と比較すると、売上規模の大きい業者の減収傾向が目立つ。2012 年度の「減収企業」は 133 社（同 62.7%）と全体の 6 割を上回っているうえ、2011 年度（46.7%）に比べて減収企業比率が高まっており、取次各社が置かれた厳しい業界環境を映し出す結果となった。

他方、損益状況を見ると、日本出版販売(株)、(株) トーハンの大手 2 社を含む売上上位 8 社中 4 社が「2 期連続黒字」となった。売上上位 30 社で見ても、全体の 7 割（21 社）が「2 期連続黒字」となっている。2012 年度の「黒字企業」は 178 社（構成比 84.0%）と全体の 8 割を超えており、大手・中小を問わず、一層の在庫管理の徹底や物流の効率化によってコスト削減を進めた結果と見られる。

取次業者 比較

売上推移	全体		上位30社		31位以下	
		構成比 (%)		構成比 (%)		構成比 (%)
2期連続増収	46	21.7	5	16.7	41	22.5
2期連続減収	66	31.1	12	40.0	54	29.7
上記以外	100	47.2	13	43.3	87	47.8
合計	212	100.0	30	100.0	182	100.0

損益状況	全体		上位30社		31位以下	
		構成比 (%)		構成比 (%)		構成比 (%)
2期連続黒字	155	73.1	21	70.0	134	73.6
2012年度に黒字転換	23	10.8	4	13.3	19	10.4
2012年度に赤字転落	16	7.5	1	3.3	15	8.2
2期連続赤字	18	8.5	4	13.3	14	7.7
合計	212	100.0	30	100.0	182	100.0

2012年度売上高 上位8社

	TDB 企業コード	企業名	所在地	2011年度 売上高 (百万円)	2012年度 売上高 (百万円)	2011年度 前年度比 (%)	2012年度 前年度比 (%)	2011年度 当期純損益 (百万円)	2012年度 当期純損益 (百万円)
1	985654708	日本出版販売(株)	東京都	577,746	581,355	▲ 2.1	0.6	1,925	3,168
2	985485552	(株) トーハン	東京都	503,903	491,297	▲ 3.0	▲ 2.5	1,561	2,407
3	580055226	(株) 大阪屋	大阪府	119,943	94,259	▲ 5.5	▲ 21.4	123	▲ 163
4	985176038	栗田出版販売(株)	東京都	44,295	40,800	▲ 4.4	▲ 7.9	▲ 168	24
5	987053897	(株) 図書館流通センター	東京都	42,231	39,502	12.5	▲ 6.5	1,307	857
6	985393693	(株) 大洋社	東京都	38,923	35,360	▲ 2.8	▲ 9.2	▲ 184	▲ 541
7	985606907	(株) 日教販	埼玉県	36,317	33,300	1.7	▲ 8.3	▲ 107	▲ 23
8	981468876	(株) 中央社	東京都	26,410	27,219	2.4	3.1	158	114

※ 上記は単独決算数値、一部推定値含む

3. 書店経営業者（301社）

2012年度の売上推移を見ると、売上高トップの（株）紀伊國屋書店を含め、売上上位10社中6社が「減収」となったことが判明した。このうち、（株）紀伊國屋書店、（株）フタバ図書、（株）文教堂の3社が「2期連続減収」となるなど、上位書店チェーンも伸び悩んだ。売上上位30社を見ても、全体の4割にあたる12社が「2期連続減収」となっている。

これに対し、売上31位以下では「2期連続減収」の構成比が46.5%（126社）にのぼる。売上上位30社と比較しても、小規模の書店経営業者ほど売上減に歯止めがかかっていない現状が垣間見える。なお、2012年度の「減収企業」は207社（構成比68.8%）と全体の約7割となっている。

他方、損益状況を見ると、2012年度の「黒字企業」は216社（構成比71.8%）と、2011年度（75.4%）を下回ったものの、出版社、取次業者と同様に、一定の利益水準を確保している

業者が目立つ。売上上位10社中7社が「2期連続黒字」となっているうえ、売上上位30社で見ても、全体の3社に2社（20社）が「2期連続黒字」となった。一方、売上31位以下では、「2期連続赤字」の構成比が16.6%（45社）と、売上上位30社の比率（10.0%）を大きく上回るなど、小規模の書店経営業者は損益面でも厳しい状況にあることが見て取れる。

書店経営業者比較

売上推移	全体		上位30社		31位以下	
	数	構成比 (%)	数	構成比 (%)	数	構成比 (%)
2期連続増収	48	15.9	8	26.7	40	14.8
2期連続減収	138	45.8	12	40.0	126	46.5
上記以外	115	38.2	10	33.3	105	38.7
合計	301	100.0	30	100.0	271	100.0

損益状況	全体		上位30社		31位以下	
	数	構成比 (%)	数	構成比 (%)	数	構成比 (%)
2期連続黒字	190	63.1	20	66.7	170	62.7
2012年度に黒字転換	26	8.6	2	6.7	24	8.9
2012年度に赤字転落	37	12.3	5	16.7	32	11.8
2期連続赤字	48	15.9	3	10.0	45	16.6
合計	301	100.0	30	100.0	271	100.0

2012年度売上高 上位10社

	TDB 企業コード	企業名	所在地	2011年度 売上高 (百万円)	2012年度 売上高 (百万円)	2011年度 前年度比 (%)	2012年度 前年度比 (%)	2011年度 当期純損益 (百万円)	2012年度 当期純損益 (百万円)
1	985145908	(株) 紀伊國屋書店	東京都	109,806	108,190	▲ 2.8	▲ 1.5	329	503
2	201493807	ブックオフコーポレーション (株)	神奈川県	57,942	58,692	4.9	1.3	1,374	428
3	530076818	(株) ジュンク堂書店	兵庫県	51,135	51,315	7.0	0.4	▲ 1,146	▲ 129
4	200301780	(株) 有隣堂	神奈川県	50,637	51,311	▲ 6.5	1.3	194	311
5	983360307	(株) 未来屋書店	千葉県	48,014	50,565	2.1	5.3	665	632
6	600206389	(株) フタバ図書	広島県	37,072	35,198	▲ 3.7	▲ 5.1	307	348
7	201962263	(株) 文教堂	神奈川県	35,524	33,501	▲ 10.8	▲ 5.7	▲ 68	▲ 50
8	340292445	(株) トップカルチャー	新潟県	32,404	32,197	7.6	▲ 0.6	480	165
9	710058120	(株) 宮脇書店	香川県	28,567	27,314	0.9	▲ 4.4	249	194
10	213000255	丸善書店 (株)	東京都	28,117	25,378	-	▲ 9.7	▲ 259	▲ 113

※ 上記は単独決算数値、一部推定値含む

4. まとめ

10月1日、新生「(株) KADOKAWA」が誕生した。グローバル化とデジタル化に対応すべく、(株) 角川書店、(株) メディアファクトリーなど連結子会社 9 社を合併。外部環境の変化に迅速かつ大胆に対応し、さらなる大きな成長機会を目指して組織再編に踏み切った形だ。

こうした動きの背景には、出版市場の縮小がある。出版科学研究所によると、2013 年上半期の推定出版物販売部数は、書籍が 3 億 6489 万冊（前年同期比 0.1%増）、雑誌が 8 億 7627 万冊（前年同期比 6.3%減）となっている。「雑誌離れ」が叫ばれて久しいが、書籍よりも雑誌の方が部数の減少幅が大きく、このため、雑誌部門の比率が高い大手出版社を中心に、厳しい決算内容が続く結果となった。

今回の調査結果を見ると、「出版社、出版取次、書店」という出版流通の“川上”から“川下”に至るまで、いずれも減収傾向に歯止めがかかっていない現状があらためて浮き彫りとなる。各社ともに、今後の成長が期待される「電子書籍」への対応・展開を進めているが、売り上げへの寄与は限定的なものにとどまっている。現状ではむしろ、電子書籍の台頭が紙媒体の一部需要を奪う“負の側面”が大きいようだ。

2013 年 1～9 月の出版業者の倒産は 27 件（前年同期 25 件）発生し、2 年ぶりの増加に転じている。その大半が、電子書籍への対応余力に乏しい負債 5000 万円未満の零細業者であり、厳しい業界環境が続くなか、これら中小出版社を中心に、事業継続を断念するケースが今後も増加していくと見られる。

【 内容に関する問い合わせ先 】

(株) 帝国データバンク 東京支社 情報部 内藤 修
TEL 03-5919-9341 FAX 03-5919-9348
e-mail osamu.naitou@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。